

『あいみての』

逢ひ見ての 後の心にくらぶれば 昔はものを 思はざりけり

権中納言敦忠

[現代訳]

貴方と逢って愛しあった後の心に比べれば、それ以前の物思いなど無かったようなものだ

作者は権中納言敦忠

左大臣藤原時平の三男で母は在原業平の孫

三十六歌仙の一人で琵琶の名手、大和物語に右近との恋愛が描かれています。

在原業平の血を引くだけに恋多き人でした。3 人の妻がおり 4 男 1 女をもうけています。

942 年に従三位権中納言に昇進していますが翌年 38 歳で生涯をとじました。

山陽小野田かるた協会 小田 広行